

日本語基礎—語彙・文型—実践例紹介

中学校:「～たほうがいい(と思います)」

北区立赤羽岩淵中学校 田中 阿貴

# 初期指導・語彙・文型指導で大切にしていること

## 言葉を使って表現する必然性を作る

コミュニケーション

相手のことを知りたい！  
相手に自分のことを伝えたい！  
関係性を大切に。

考えて、「わかった！」と思うと  
伝えたくなる。

喜怒哀楽

思考

感情が動かないところに  
言葉は入っていかない。  
笑いを大切に。

「語彙・文型を教える」ではなく、  
「その語彙・文型を使って  
何ができるようにするのか」

# 初期指導・語彙・文型指導で大切にしていること

## 5つの支援➡あの手・この手・その手・どの手？あらゆる手を活用

- ・理解支援：言い換え・視覚化・ジェスチャー・母語活用・筆談・板書・・・
- ・表現支援：モデル提示・対話・ジェスチャー・母語活用・筆談・板書・・・
- ・記憶支援：視覚化・音声化・動作化・リズム・繰り返し・・・
- ・自立支援：自分で勉強できる方法を教える。
- ・情意支援：認める、褒める。できた、分かったと実感させる。一緒に喜ぶ。

「学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編)2日本語支援の考え方とその方法」(P14-15)より

# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

対象：来日1年弱

日本語の力：短文レベルでのやりとりができる。

聞く力は伸びているが、話すのは苦手。

日本語初級文型学習中 テ形・タ形・ナイ形学習終了後

—ています、—てください、—て—て—ています、—てもいい  
—たり—たりします、—たことがあります、—たら  
—ないでください、—なくてもいいです

などを既習で、聞いて分かるが、これらの文型を日頃から活用して表現する力はまだない。(使えるものもある。)

# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

場面設定: お悩み相談という設定で、「たほうがいい」「ないほうがいい」を使ってアドバイスする。(生徒が興味をもちそうな場面設定・悩みを考える。)

使用教科書: 「中学生の日本語学校生活編・16課「—ほうがいいです」

## 日本語の目標

- ・「—たほうがいいです。」「ないほうがいいです。」などを使って、様々な悩みにアドバイスすることができる。
- ・「—たほうがいいよ」「—たほうがいいね」「—たほうがいいと思います。」など、強くなりすぎない工夫ができる。

# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

## 導入

日本に来て大変だったこと、困ったことについて話し合っ、  
「～がほうがいい。」を使う場面へともっていく。

T: 日本に来て、困ったこと、大変だったこと、難しいことはありますか。

S: 日本語が話せない。友達ができない。

T: じゃあ、どうしたらいいと思いますか。

S: 日本語勉強するがいい。

T: そうだね。日本語を勉強したほうがいいですね。

目標の提示:

色々な悩みに「～たほうがいい」「～ないほうがいい」でアドバイスしよう。

# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

## 展開

アドバイスするとき、「—たほうがいい」「—ないほうがいい」を使うことを説明



教科書の写真

テキスト「中学生のにはんご」を活用して説明。



教科書の写真

# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

展開

テ形・タ形の活用が未定着なので復習。

タイマーを使って、テンポよく。

「みんなの日本語 書いて覚える文型練習帳」  
を活用。

教材の写真

間違えたら、「タ形の歌」と表で復習。  
きらきら星の音程で、「いちりった、みびにんだ、  
きいた、ぎいだ、しした、食べます食べた、起き  
ます起きた、来ます来た、しますした、持ってきた、  
勉強した」

## 動詞のグループ分け・て形の作り方

1グループ ます形→**~i音** 辞書形→**~u音**

**いちり→って**

か か  
買**います**→**買**って  
た た  
立**ちます**→**立**って  
と と  
取**ります**→**取**って

**みびに→んで**

の の  
飲**みます**→**飲**んで  
あ あ  
遊**びます**→**遊**んで  
し し  
死**にます**→**死**んで

★**行きます**→**行**って

**き→いて**

か か  
書**きます**→**書**いて

**ぎ→いで**

い い  
急**ぎます**→**急**いで

**し→して**

は は  
話**します**→**話**して

2グループ **~e音**

た た  
食**べます**→**食**べて

で で  
出**でます**・開**けます**・閉**めます**

か か  
寝**ねます**・入**れます**・出**で**ます

か か  
教**えます**・見**せます**

お お  
覚**えます**・か**け**ます

★**~i音(特別)**

お お  
起**きます**・見**み**ます・

お お  
下**ります**・落**ち**ます・

あ あ  
浴**び**ます・着**き**ます・

い い  
ま**す**・借**り**ます

3グループ **ます→て**

★**来**ます→**来**て

も も  
持**って**来**ます**→持**って**来**て**

★**し**ます→**し**て

〇〇**し**ます→〇〇**し**て 〇〇→名詞

べんきょう べんきょう  
勉**強**し**ます**→勉**強**し**て**



# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

## 展開

## パターンプラクティス

動詞カードを、「～たほうがいいです」「～ないほうがいいです」で答える。

単純なパターンプラクティスにならないように、場面設定を即興で作る。

T: テストでいつも間違えます。ちゃんと問題を—?

S: 読んだほうがいいです。

T: テストの時間が足りません。全部の文を—?

S: 読まないほうがいいです。

T: 大切なところだけを—?

S: 読んだほうがいいです。



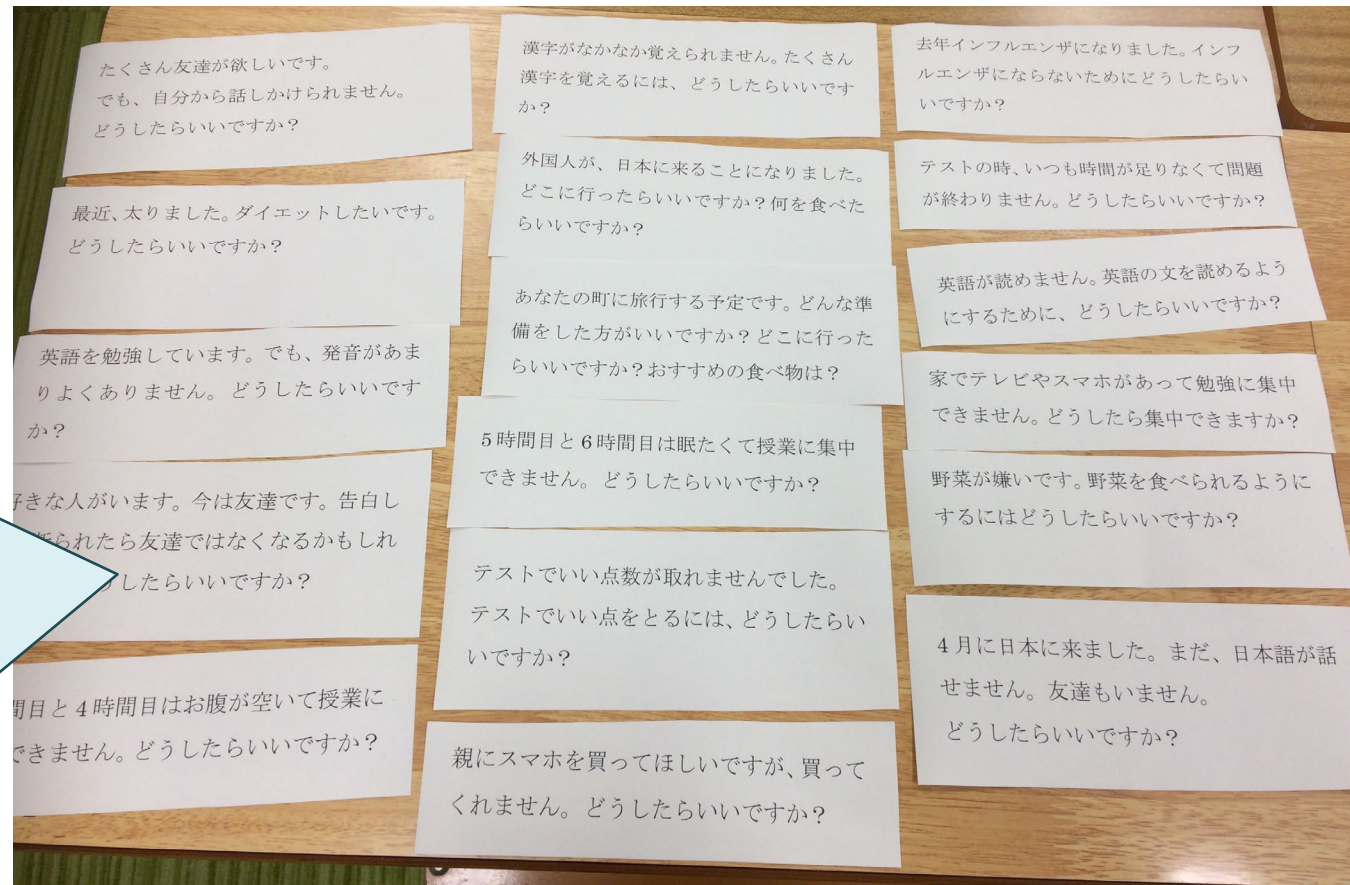
# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

## 展開

ラジオ「お悩み相談室」の設定を説明して、お悩みカード引いて、それに対して「—たほうがいい」「—ないほうがいい」アドバイスする。

S<sub>1</sub>: たくさん友達がほしいです。  
でも自分から話しかけられません。  
どうしたらいいですか。

S<sub>2</sub>: 「元気？」とか「宿題終わった？」とか簡単な話からはじめたほうがいい。



# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

## 展開

「—たほうがいい。」は、ちょっと強すぎるので、どうしたらいいか尋ねて、「—たほうがいいよ。」「—たほうがいいと思うよ。」

など、より自然な会話にできる工夫について話し合う。

他の生徒や先生、自分自身の経験など、話を広げる。

他の生徒に、「〇〇さんはどう思いますか。」「先生はどう思いますか。」

と他の人のアドバイスも聞けるよう、質問させる。

「〇〇さんも、同じようなことがありましたか。」

と生徒が自分の経験について話せるようにする。

# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

## まとめ

### 友達や先生の見解も参考に、悩みへのアドバイスを書く。

たくさん友達がほしいです。でも自分から話しかけられません。どうしたらいいですか。

自分から頑張って話しかけたほうが良いと思います。

「元気？」とか「宿題終わった？」とか簡単な話からはじめたほうが良いと思います。

中国語を勉強していますが、発音が難しいです。どうしたらいいですか。

ピンインと四声を勉強したほうが良いと思います。

たくさん聞いて勉強したほうが良いと思います。

好きな人がいます。今は友達です。告白して、断られたら友達ではなくなるかもしれません。どうしたらいいですか？

今は告白しないほうが良いと思います。同じ高校に行けるように勉強を頑張って、卒業の時に告白したほうが良いと思います。

最近、太りました。ダイエットしたいです。どうしたらいいですか？

健康のためならダイエットしたほうが良いと思います。美容のためならダイエットしないほうが良いと思います。

野菜をたくさん食べたほうが良いと思います。

# 日本語基礎—語彙・文型— 「たほうがいいです。」

発展

技能別日本語(書く)

「—たほうがいい。」を使って、  
200字程度の意見作文を書く。

「宿題があったほうがいいか、ないほうがいいか」理由を含めて200字程度で書く。

